



The image shows a computer monitor displaying the INSIGHT software interface. The interface includes a top navigation bar with various icons, a main visualization area showing a 3D model of a construction site with a yellow SP tag in the foreground, and a bottom status bar with buttons for "Active", "Logout", "Log Out", and "Stop". The tag has the following text: "www.sp@sp.com", "DIRECT THIS FACE TOWARDS LOG ON", "CONTAINS FCC ID: V17044831400004", "CONTAINS FCC ID: V17044831400004", "MODEL: SW-D".

INSIGHT Software

 Operating instructions

INSIGHT(V5)インサイトソフトウェア取扱説明書



Crosby | Straightpoint は、本マニュアルに含まれるいかなる誤りや脱漏についても一切の責任を負いません。

はじめに	5
概要	5
インサイトに必要なもの	5
コンピュータの動作環境	5
インサイトのインストール	5
USB dongleの取付	6
インサイトの起動	7
インサイトのアクティベート	8
ロードセルの登録	9-10
プロジェクトの設定	11-12
プロジェクト名と詳細	11
表示単位	11
データロギング(記録)方式(ドロップダウンリストから選択)	12
データロギング周期 (msミリ秒)	12
ログデータ保存先	12
RFチャンネルとセキュリティキー	12
オーバーロード %	12
プロジェクトロードセルの設定	13-17
プロジェクトロードセルの編集	13
ロードセルのシリアル番号	14
数式の利用	14
ロードセルの表示名	15
アラーム設定	15-16
高度な設定	16
データ読取	18-19
ディスプレイのアイコン	20
チャート機能(読取値のグラフ化)	21
ビジュアル化機能(ディスプレイのマッピング表示)	22
レポート機能(テキスト/HTMLフォーマットの作成)	23-24

重心測定 (CoG)機能	25-27
プルーフテストプラス (PTP)機能	28-39
PTP の設定	29-34
証明書発行者情報の入力	29-30
ロードセルの選択	31
顧客情報の入力	32
試験情報の入力	33
試験エンジニア情報の入力	34
PTPの実行	35-38
プルーフテストの実施	35-36
証明書の閲覧、削除、エクスポート	37-38
PTPデータベースの管理	39
データロギング(記録)	40
ログデータのファイル形式	40
データのバックアップと復元	40
アイコン一覧	41
備考	42

はじめに

概要

INSIGHTソフトウェアの主な機能は、以下の通りです。

- 手持ちディスプレイSW-HHPが備える各種機能(風袋引き、ピークホールド、アラーム等)。
- ロードセル読取値のデータロギング(記録)、グラフ化、ログレポートの作成。
- 現場画像取り込みによる、作業環境と各ロードセル配置のビジュアル化。
- 計測対象物の重心位置の割り出しと重心位置(COG)レポートの作成。
- プルーフテスト(保証試験)の実施と試験荷重及び試験内容の証明書の作成。

インサイトに必要なもの

インサイトソフトウェアの使用にはUSB dongle(SW-D)と1台以上のロードセルが必要です。

コンピュータの動作環境

- プロセッサ: 3 GHz 以上
RAM: 4 GB
NET 4.5.2 以降(自動的にインストールされます)
- Windows® 7, Windows® 8、Windows® 10又は Windows® 11
(言語オプションは英語を選択してください)
- USB ポート (ハブポートは避けてください)

インサイトのインストール

以下のいずれかの方法で開始してください。

SW-D USB dongle付属のカードに表示されたQRコードを読み取りソフトウェアをスマートフォンにダウンロードします。ダウンロードが完了したら、ファイルをオンラインまたはオフラインでコンピューターに転送します。

またはURL (www.straightpoint.com/software/insight.zip) をウェブブラウザのアドレスバーに入力して、ソフトウェアをコンピューターに直接ダウンロードします。

ダウンロードが完了したらダウンロードしたファイルをダブルクリックしてください。

ソフトウェアが自動的にインストールされます。

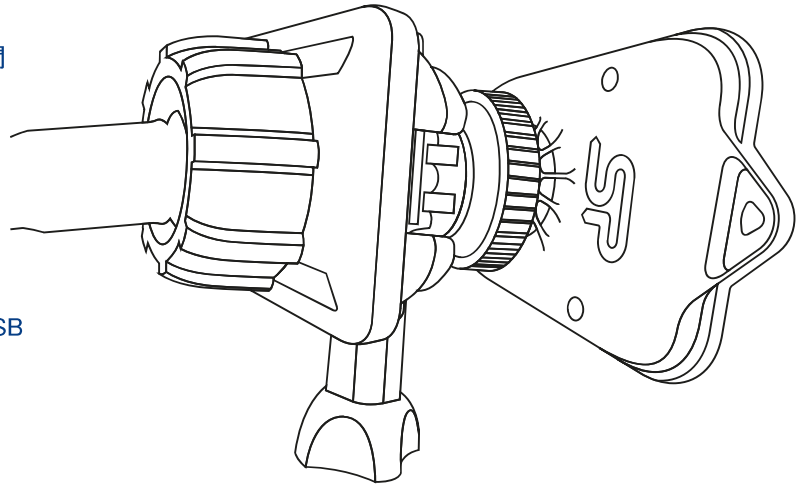
ご使用のWindowsのバージョンによっては、このINSIGHTソフトウェアがコンピューターに損害を与える可能性があることが通知され、インストールの許可が求められる場合があります。その場合は、ソフトウェアをインストールするパスを指定してください。

USBドングルの取付

USBドングルをコンピューターに差し込んでください。ドライバーをインストールする必要はありません。



USBドングル(SW-D)とロードセル間より良い見通し距離を確保するための手段として、スポーツカメラやGo-pro等アクションカメラの取付キットにUSBドングルを取りつける方法があります。



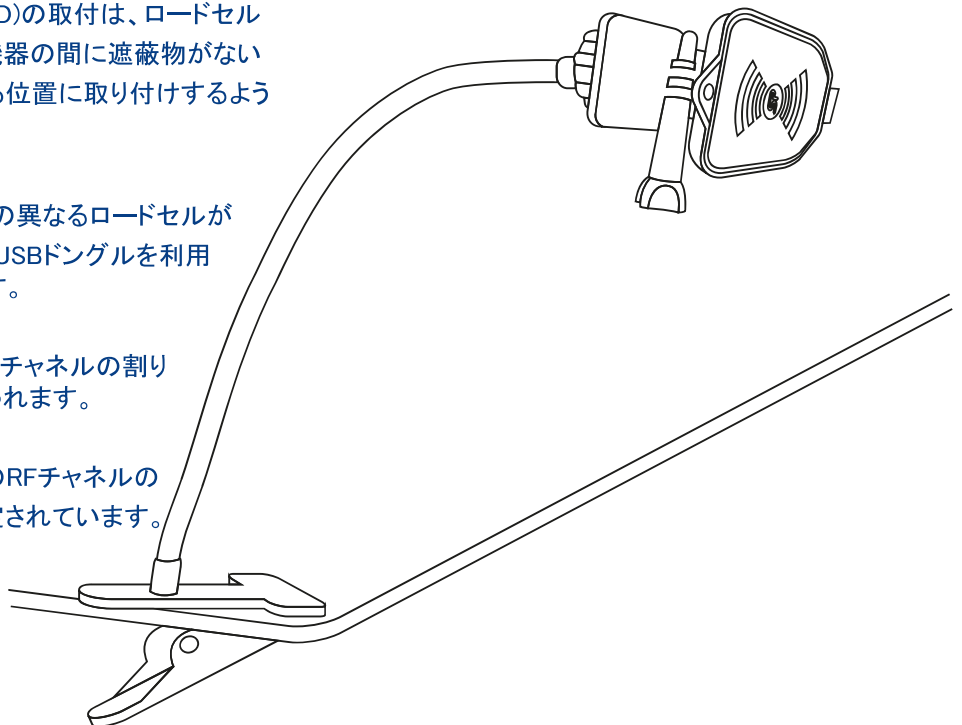
その場合はUSB延長ケーブルでUSBドングルをPCと接続してください。

USBドングル(SW-D)の取付は、ロードセルとの見通し線(両機器の間に遮蔽物がない状態)が確保できる位置に取り付けするようにしてください。

注意: RFチャンネルの異なるロードセルがある場合、複数のUSBドングルを利用することができます。

各ドングルへのRFチャンネルの割り当ては自動で行われます。

注意: ロードセルのRFチャンネルの規定値は15で設定されています。

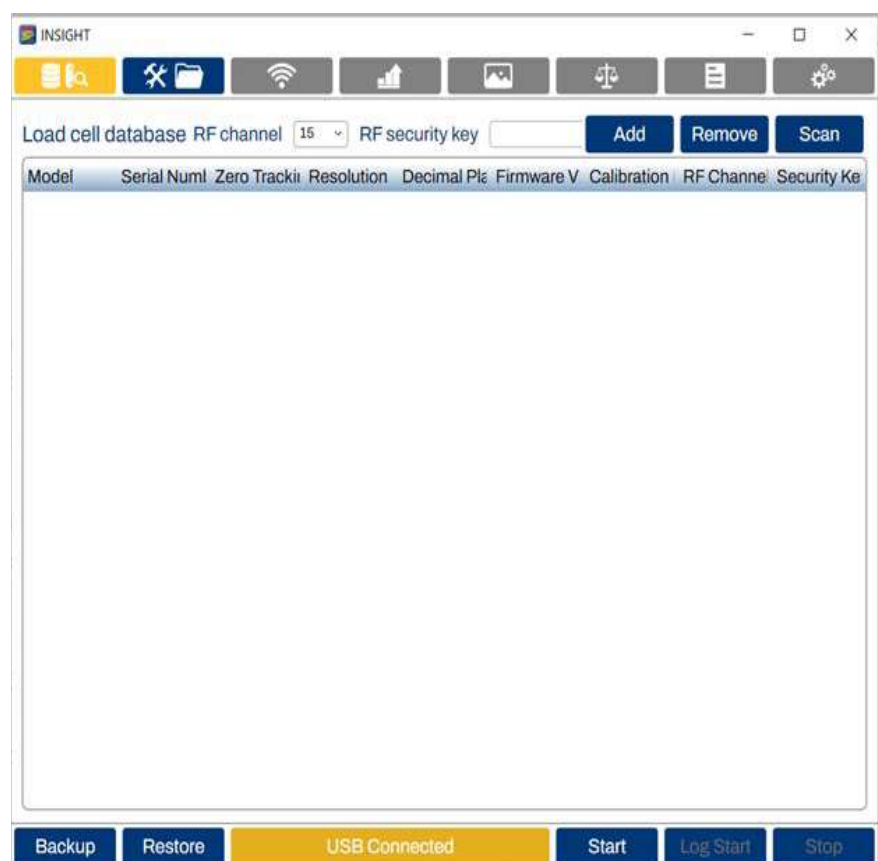
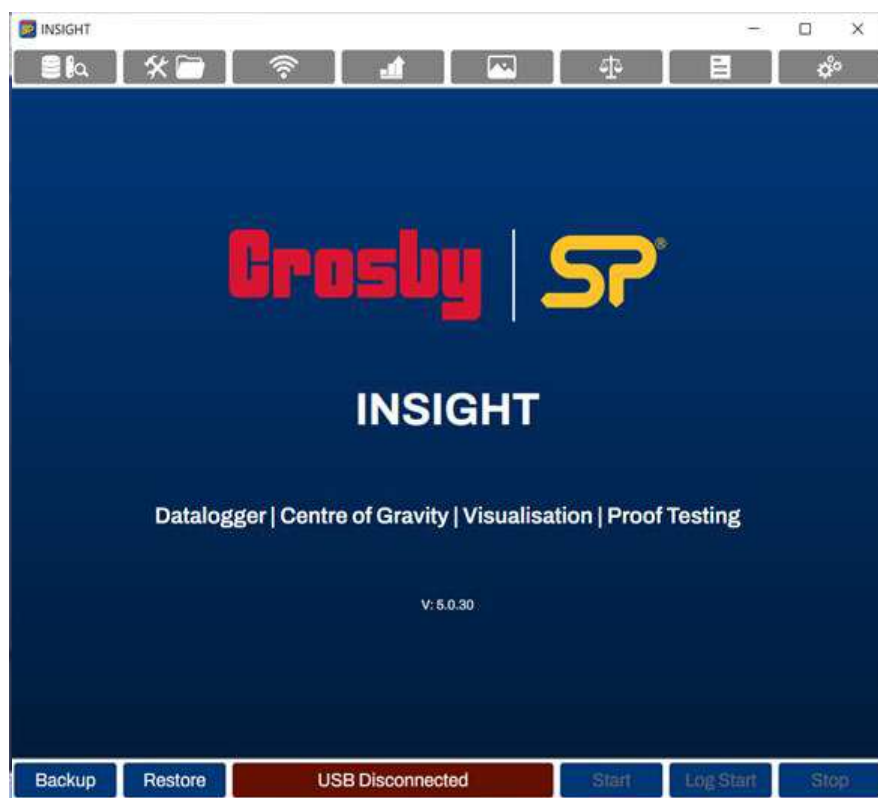


インサイトの起動



インサイトアイコンを探るか、Windowsの検索バーに「INSIGHT」と入力し、インサイトアイコンをダブルクリックすると、次の画面が表示されます。

初めてインサイトを使用する場合は、アクティベートが必要です。
アクティベーション手順はP.8を参照してください。

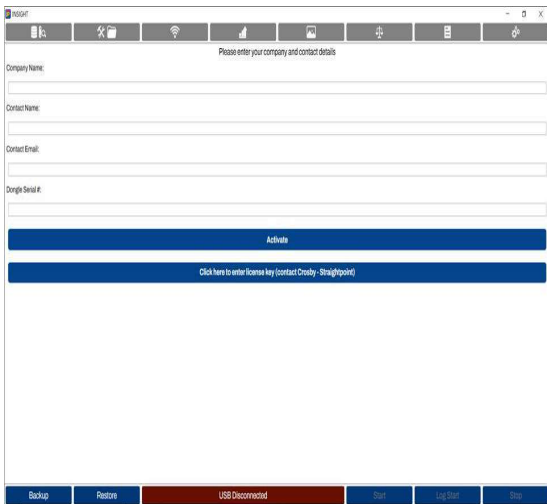


注記: USB ドングルが正しく差し込まれたら、画面の下に「USB Connected (USB 接続)」とオレンジ色で表示されます。

インサイトのアクティベート

重要: インサイトをアクティベートしないと、インサイトの各機能は利用できません。

インサイトをアクティベートする方法は(1)オンライン申請と(2)Eメールでのライセンスキー申請の2通りあります。通常はオンライン申請をお勧めします。

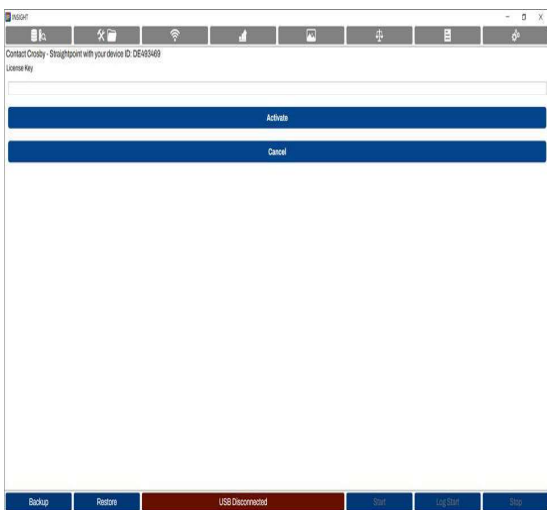


(1) オンライン申請

オンライン申請はインターネットが繋がっている状態で行ってください。画面内の空欄(会社名、担当者名、Eメールアドレス、USB dongleのシリアル番号)を記入し、**Activate**(アクティベート)ボタンをクリックします。dongleのシリアル番号はdongle裏面に記載されています。

申請メッセージがCrosbyStraightpoint社のサーバーに送られ受け付けられます。申請者情報の確認後、申請が受理されると画面が切り替わり、インサイトの各種機能をご利用いただけるようになります。

注記: 確認プロセスは数日かかる可能性があるため、アクティベート申請はソフトウェアの使用予定日より前に十分に余裕をもって行うようにしてください。



(2) Eメールでのライセンスキー申請

Eメールで申請した場合、アクティベーションは1年ごとに更新が必要です。

上記画面で**Click here to enter license key(contact Crosby - Straightpoint)**(ライセンスキーを入力する)ボタンをクリックすると左画面が表示されます。

画面上部の**unique ID**(左画面ではDE493469)を確認したら、会社情報、連絡Eメールアドレスを記入の上、activate.sp@kitocrosby.com宛てにEメールを送ってください。

CrosbyStraightpointから返信がきたら、左画面の空欄にライセンスキーを入力し、**Activate**(アクティベート)ボタンをクリックしてください。画面が切り替わりインサイトの各種機能をご利用いただけるようになります。



なお、Eメール申請フォームも下記QRコード又はリンクにご用意していますのでよろしければご利用ください。メール作成QRというサイト(左画面)にジャンプしますので、“こちらから”をクリックしてください。(”メール作成画面はこちら”をクリックするとメール文面が文字化けする可能性があります。)



<https://mail-to.link/m9/4grq1q4>

ロードセルの登録

INSIGHTの各種機能を使用できるようにするためには、ロードセルをデータベースに登録する必要があります。ストレートポイント社のロードセルを少なくとも1台準備してください。



操作画面の左上隅に表示されたロードセルのデータベースアイコンを選択します。

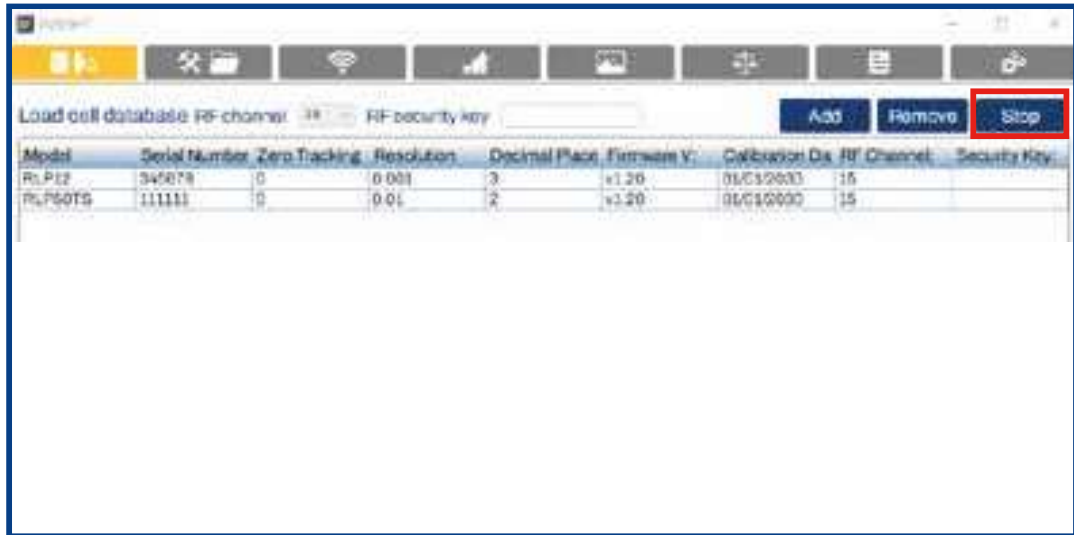
ロードセルにバッテリーが挿入されていることを確認して、右上隅のScan(スキャン)ボタン(上図の赤枠)をクリックします。

注記: RFチャンネルまたはセキュリティーキーがRF Channel(RFチャンネル)ドロップダウンオプションに表示されているものと異なる場合は、スキャン開始前に正しく設定してください。正しいチャンネルまたはキーに設定されていない場合は、ロードセルが表示されません。ロードセルの既定チャンネルは15です。



ロードセルの登録(続き)

スキャンが開始されたら、使用可能なロードセルが1分程でロードセルデータベースウィンドウに表示されます。必要なロードセルが表示されたら、STOP(停止)ボタンをクリックしスキャンを終了してください。



Stop(停止)ボタンをクリックしなければ、他の項目を編集できません。エントリーをハイライトする場合は、そのエントリーをクリックしてください。

データベースからロードセルを削除する場合は、ロードセルをハイライトしてから **Remove** (削除) ボタンを選択します。

ロードセルが表示されていない場合は、**Add** (追加) ボタンを選択して手動で追加することもできます。これを行うには、新しい空白のエントリーを選択し、各フィールドにバージョン番号以外の情報を入力します。データが自動的に保存され、**Saved load cell** (ロードセルを保存済) メッセージが表示されます。

ロードセルの追加は必要に応じて後からこのデータベース画面に戻り登録することもできます。必要なロードセルがデータベースに追加されたら、インサイトソフトウェアの他の機能が使用可能になります。

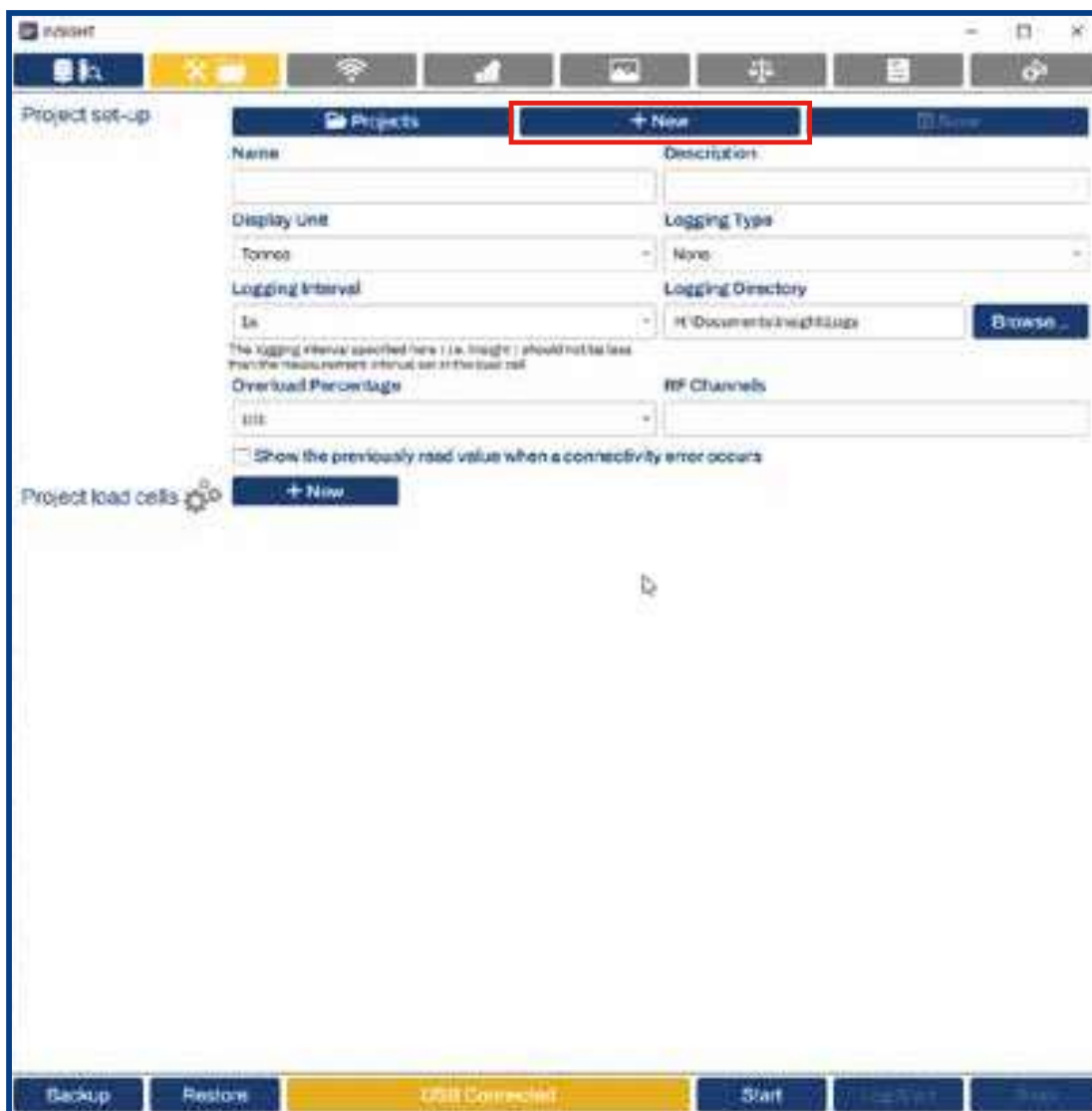
注記: SW-D dongle 1台で通信できるのは同じRFチャンネルとセキュリティキーを持つロードセルのみです。セキュリティキー又はチャンネルが異なるロードセルを同じプロジェクトで同時に使用したい場合は、追加のdongleが必要です。RFチャンネルやセキュリティキーを変更しながら上記スキャンの手順を繰り返してください。

プロジェクトの設定

データベースにロードセルの登録が完了したら、次はプロジェクトの設定を行います。後述のロードセルの計測、データロギング、CoG(重心)計算やプルーテスト(PTP)機能を利用するためには、まずこのプロジェクトの作成が必要です。プロジェクトの作成には、ロードセルデータベースから1台以上のロードセルを割り当てる必要があります。過去にプロジェクトを作成している場合は、**Projects**(プロジェクト)ボタンをクリックすると、作成済みプロジェクトの一覧がウィンドウに表示されますので、使用するプロジェクトを選択してください。プロジェクトの詳細は編集可能です。



新たにプロジェクトを作成する場合は、**+New**(新規作成、下図赤枠)ボタンを先ずクリックしてください。フィールド入力後にこのボタンをクリックすると、入力データは消えてしまいます。



+New ボタンクリック後、下記項目を入力してください。

Project Name(プロジェクト名)と**description**(内容)
プロジェクト名と内容をプレーンテキストで入力してください。

Units(計測単位)
表示単位をドロップダウンリスト(Tonnes(te)/Kilograms(kg)/Kilo Newtons(kN)/Pounds(lb))より選択してください。ここで選択した単位はロードセルデータベースでの情報よりも優先されます。

プロジェクトの設定(続き)

Logging Type (データロギング(記録)方式、ドロップダウンリストより選択)

- **None** (ロギングなし)
データロギングを行わず、ログデータは作成されません。
- **Continuous** (自動)
設定されたロギング周期に従い自動的にデータを記録します。
プロジェクトに登録されている全てのロードセルに対し適用されます。
ロギングは**Log Start**(ログ開始)ボタンを押して開始します。
- **Manually Triggered** (手動)
手動でデータを記録します。**Log**(ログ)ボタンを押した瞬間の1つのデータ値のみが記録されます。
- **At Alarm** (アラーム発生時)
アラーム条件を最初に超えた読取値をデータファイルに記録します。
ロギングは**Log Start**(ログ開始)ボタンを押して開始します。
- **While In Alarm** (アラーム発生中)
アラーム条件を超えている間の読取値をデータファイルに記録します。
ロギングは**Log Start**(ログ開始)ボタンを押して開始します。

Logging Interval (ロギング周期)

データログを行う間隔を示すロギング周期をドロップダウンリストから選択できます。
ここで選択したロギング周期はロードセルで予め設定された測定間隔を上書きします。
ロードセルの測定周期よりも最小単位が大きいロギング周期は選択しないでください。

ロギング周期にはミリ秒(ms)単位のものもあります。1000^ミ秒は1回/秒の周期です。

Logging Directory(ログデータ保存先)

ログデータを保存するフォルダのディレクトリーパスを入力します。このパスはCOG(重心)レポートの保存先としても使用されます。

注記: 規定パスはユーザープロファイルにリンクされており、通常は 'C:\Users\¥YourName\Documents\¥Insight\¥Logs' となりますが、お使いのネットワークによっては別のパスが設定される場合があります。

RF Channels(RFチャンネル)

初期設定ではRFチャンネル「15」を使用し、セキュリティキーは空白となっています。
これらの値はプロジェクトに追加された最初のロードセルから移植されるため編集できません。

Overload percentage(オーバーロード%)

オーバーロード値をロードセルの使用荷重の割合(%)で設定します。オーバーロードになると、値の代わりにOVERLOADのテキストが表示されます。既定値は101%で最大値は110%です。この機能をオフにする場合は、0%に設定してください。



1 通信エラーが発生した場合は直前の読取値を表示
このチェックボックスに✓すると、通信タイムアウトエラーが発生した場合に直前の読取値を表示し続けます。
✓を入れない場合、通信エラーが発生すると数値の代わりに---(ダッシュマーク)が表示されます。
この機能は多数のロードセルを接続し、タイムアウトエラーが一時的に発生しうる場合に有効です。

2 上記設定が完了したら、他の画面へ移動する前に必ず**Save**(保存)ボタンをクリックして設定を保存してください。

プロジェクトロードセルの設定

次にデータベースで登録したロードセルをプロジェクトに紐づけします。

+New(新規追加、下図赤枠)ボタンをクリックしてください。

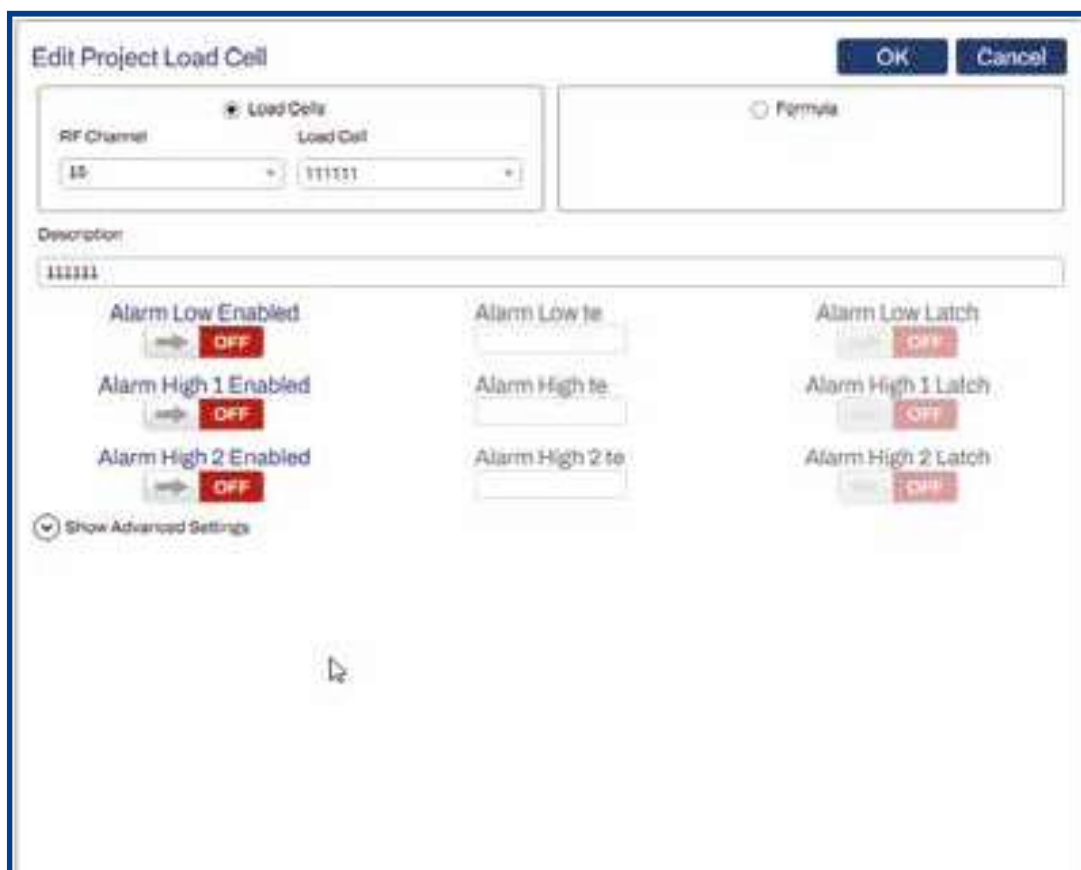
最初のロードセルを追加・保存出来たら、2台目以降のロードセルも+Newボタンから追加可能です。



Edit Project Load Cell (プロジェクトロードセルの編集)のウィンドウが表示されます。

ここではプロジェクトで使用するロードセルを選択したり、ロードセルの読取値を元にした数式を設定することができます。また各種アラーム、COG(重心)計測及びその他の設定もここで行います。

ここでの設定が完了したら、他の画面に移動する前に必ずSave(保存)ボタンをクリックしてください。



プロジェクトロードセルの設定(続き)

Load Cell Serial Number (ロードセルのシリアル番号)

ロードセルからの読取値を表示させたい場合はこの項目を選択します。ここで選択したロードセルは後述のロードセルディスプレイ(読取値のモニタリング)や重心(COG)測定機能に利用されます。またプロジェクトに登録された全てのロードセルはプルーフテストプラス(PTP)機能利用時に一覧として表示され、ユーザーはテストに使用するロードセルをその中から選択することができます。

Edit Project Loadcell (プロジェクトロードセルの設定)内では、Load Cell Serial Number (ロードセルのシリアル番号)ラジオボタンが標準設定として選択されています。

ドロップダウンリストをクリックすると、データベースで登録されたロードセルのシリアル番号の一覧が表示されます。プロジェクトで使用するロードセルを一台選択します。

後述のdescription(表記名)にははじめは選択したロードセルのシリアル番号が表示されますが、任意の文字列を入力することもできます。

Formula (数式)

ロードセルの読取値をそのまま表示する代わりに、読取値を元にした数式を組み立て、その計算値を表示させることも可能です。これは、変換係数を用いた特殊な値の算出が必要な場合や、複数のロードセルの合計値が必要な場合に便利です。

数式で使用するロードセルは、[123456]のようにシリアル番号を角括弧で囲んで直接入力することができます。または、Load Cell Serial Number(ロードセルのシリアル番号)のドロップダウンリストで任意のシリアル番号を選択しておき、[Formula(数式)] ボタンをクリックすると、シリアル番号を数式入力欄に転送することもできます。

例)トン単位のデータをポンド単位に変換する場合は、以下の数式を使用します。

[111111]*2204.62 ※ロードセルのシリアル番号は、角括弧で囲んで表示されます[111111]。

4台のロードセルの値を合計する場合は、以下の数式を使用します。

[111111]+[123456]+[123411]+[123422]

数式パーサーは、以下のシンボルを認識します。

+ {加算}
- {減算}
/ {除算}
* {乗算}
() {括弧}
[xxxxxx] {ロードセルのシリアル番号}

数式に利用可能な関数は以下のとおりです。

ABS: ABS(Value)
CEILING: CEILING(Value)
COS: COS(Value)
COHS: COHS(Value)
FLOOR: FLOOR(Value)
LN: LN(Value)
LOG: LOG(Value)
ROUND: ROUND(Value)
SIN: SIN(Value)
SINH: SINH(Value)
SQRT: SQRT(Value)
TAN: TAN(Value)
TANH: TANH(Value)

計算可能な数式の一例

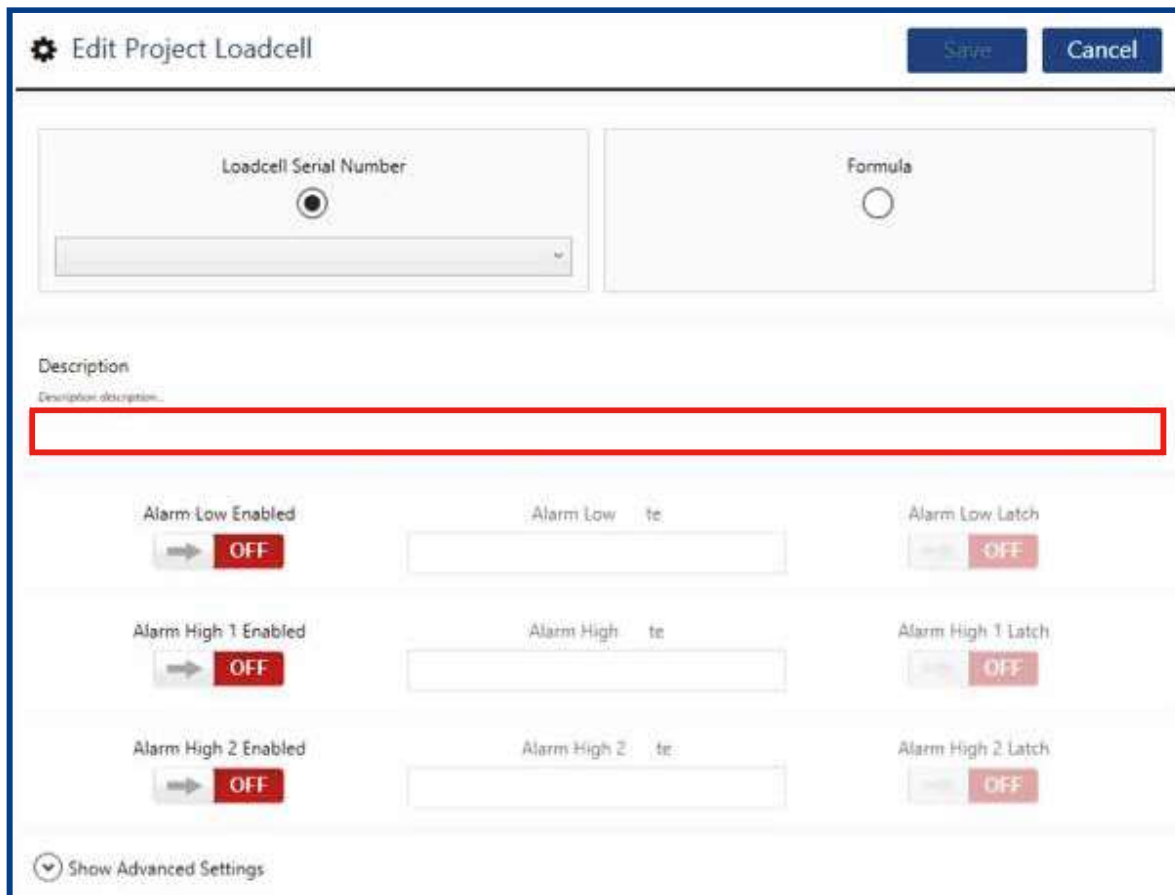
[111111] + [234567]
2.5*[111111]
[111111]+2.0
(2*[111111])+100
(2204.62 * [111111])/100
([111111]*2)/(2*[222222])
FLOOR [111111]

プロジェクトロードセルの設定(続き)

Description (表記名)

ここでの情報は、プログラムおよびレポート内でロードセルを識別するために使用されます。

表記名 (Description) 欄は自由入力です。既定ではロードセルのシリアル番号が表示されます。



他の画面に移動する前に、必ず**Save** (保存) ボタンを押してください。



Alarm Settings (アラーム設定)

インサイトソフトウェアでは3種類のアラームを各ロードセルに設定することができます。

- **Low** (下限アラーム)
読取値が**Alarm Low**(下限アラーム値)欄に入力した閾値を下回るとアラーム条件が満たされます。
- **Alarm High 1** (上限アラーム1)
読取値が**Alarm High**(上限アラーム値)欄に入力した閾値を上回るとアラーム条件が満たされます。
このアラームは警告レベルです。
- **Alarm High 2** (上限アラーム2)
読取値が**Alarm High 2**(上限アラーム値2)欄に入力した閾値を上回るとアラーム条件が満たされます。
このアラームはエラーレベルです。

プロジェクトロードセルの設定(続き)

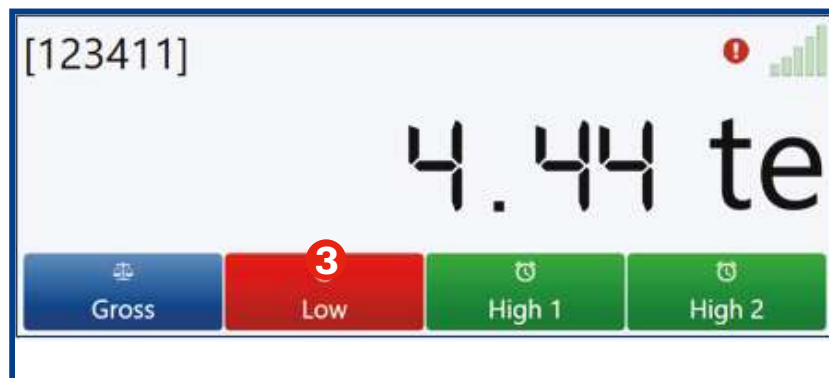
アラーム機能を有効にするためには、**Low / High 1 / High 2 Enabled**(下限/上限1/上限2アラーム有効化)ボタンをクリックしてOFF(赤)からON(緑)に切り替えてください。

次に閾値(上図ではAlarm Low te/High te/ high 2 te)を入力します。計測時にこの閾値を超えるとアラームが作動します。各値はプロジェクトで選択した表示単位(P.11)で表示されます。

また、**'Alarm Low / High 1 / High 2 Latch**((下限/上限1/上限2アラームラッチ)ボタンをクリックすると、アラームのラッチ機能を有効化することができます。

アラームは個別のロードセルまたは数式に設定可能です。アラーム閾値は絶対値です。使用荷重の%表示ではありません。

アラームの閾値を超えると、データ読取画面上(P.18-19)では該当アラームが赤色にハイライトされ、ビーブ音が鳴ります。



③



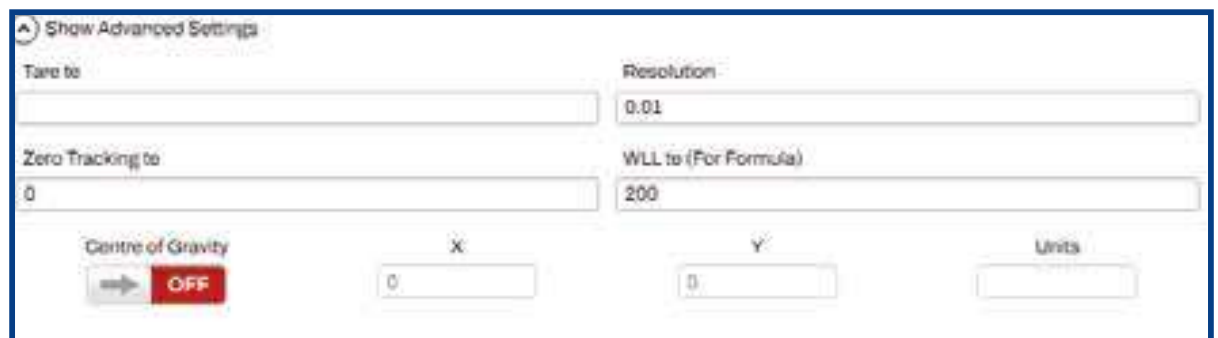
下限アラームが設定され、読取値が閾値を超過した場合のディスプレイ(左図)

アラームラッチ機能がオンの場合、一度読取値が閾値を超えてしまうと、その後値が閾値内に戻ったとしてもアラームは解除されずに保持されます。

アラームを解除するためにはディスプレイ画面右下部の**Stop**(停止)ボタンをクリックして通信を止めてください。通信を再開したい場合には**Start**(読取開始)ボタンを押してください。

Advanced Settings (高度な設定)

Edit Project Loadcell(プロジェクトロードセルの編集)画面下部にある**Show Advanced Settings**(高度な設定を表示)の矢印ボタンをクリックすると、更なる設定メニューが展開されます。



プロジェクトロードセルの設定(続き)

- **Tare**(風袋引き)

シャックル等の吊り具、容器や包装材の重量を除きたい場合は、ここに値を入力します。
ここで入力した値は、全てのロードセルのNet(ネット値)またはGross(グロス値)から差し引かれます。

- **Resolution** (解像度)

解像度はロードセルを追加すると自動的に入力されますので、通常変更する必要がありません。

(ロードセルの使用荷重に応じて設定されます。)

解像度が異なる複数のロードセルを表示する場合に、解像度を調整して他のロードセルと表示を揃えます。解像度は読取値が取る「刻み幅」を示します。

(例えば解像度を「0.02」に設定すると、値は1.02、1.04、1.06と表示されます)

解像度を設定すると、読取値の小数点以下の桁数が自動的に設定されます。

- **WLL (For Formula)** (使用荷重(数式用))

この入力欄は数式設定時(P.14)にのみ表示されます。計算値を表示する場合、ここで入力した使用荷重とオーバーロード%(P.12)を基準としてOVERLOADテキストを表示するタイミングが決定されます。

- **Zero Tracking**(ゼロトラッキング)

ゼロトラッキング値はロードセルを追加すると自動的に入力されますので、通常変更する必要がありません(ロードセルの使用荷重に応じて設定されます)が、必要に応じて変更可能です。ここで設定した値以下の値を0と表示します。

- **Centre of Gravity**(重心)

プロジェクトのロードセル(又は数式)を重心測定機能で利用する場合はこのボタンをクリックしてONにし、下記の3つの入力欄に必要な項目を入力してください。

- **X and Y co-ordinates**(X座標、Y座標(位置情報))

ロードセルの位置情報(X座標及びY座標)を入力してください。(任意の地点(X,Y)=(0,0)を基準としたローカル座標、又はグローバル座標どちらでも可)

- **Units**(単位)

X座標、Y座標の単位を入力してください。例:m、cm

注記:風袋、ゼロトラッキング、使用荷重(数式用)の表示単位は前述のプロジェクト設定で選択した単位です。

プロジェクトロードセルで数式を選択した場合、数式に用いた各ロードセル単体の読取値もディスプレイ内に表示させるようにしてください。これは各ロードセルにおけるオーバーロード発生を見逃さないためです。

例えば使用荷12tのロードセルAとBをタンデムリフティングで使用したとします。インサイトソフトウェアのディスプレイには数式[C]=[A]+[B]の計算値のみを表示させ、計算式[C]の使用荷重(数式用)を20tと設定した場合、ロードセルA及びBに使用荷重12tを超える張力が発生したとしても、ディスプレイには警告が表示されません。従って、ロードセルA、Bの読取値もディスプレイに表示させ、単体でのオーバーロードも同時に監視する必要があります。

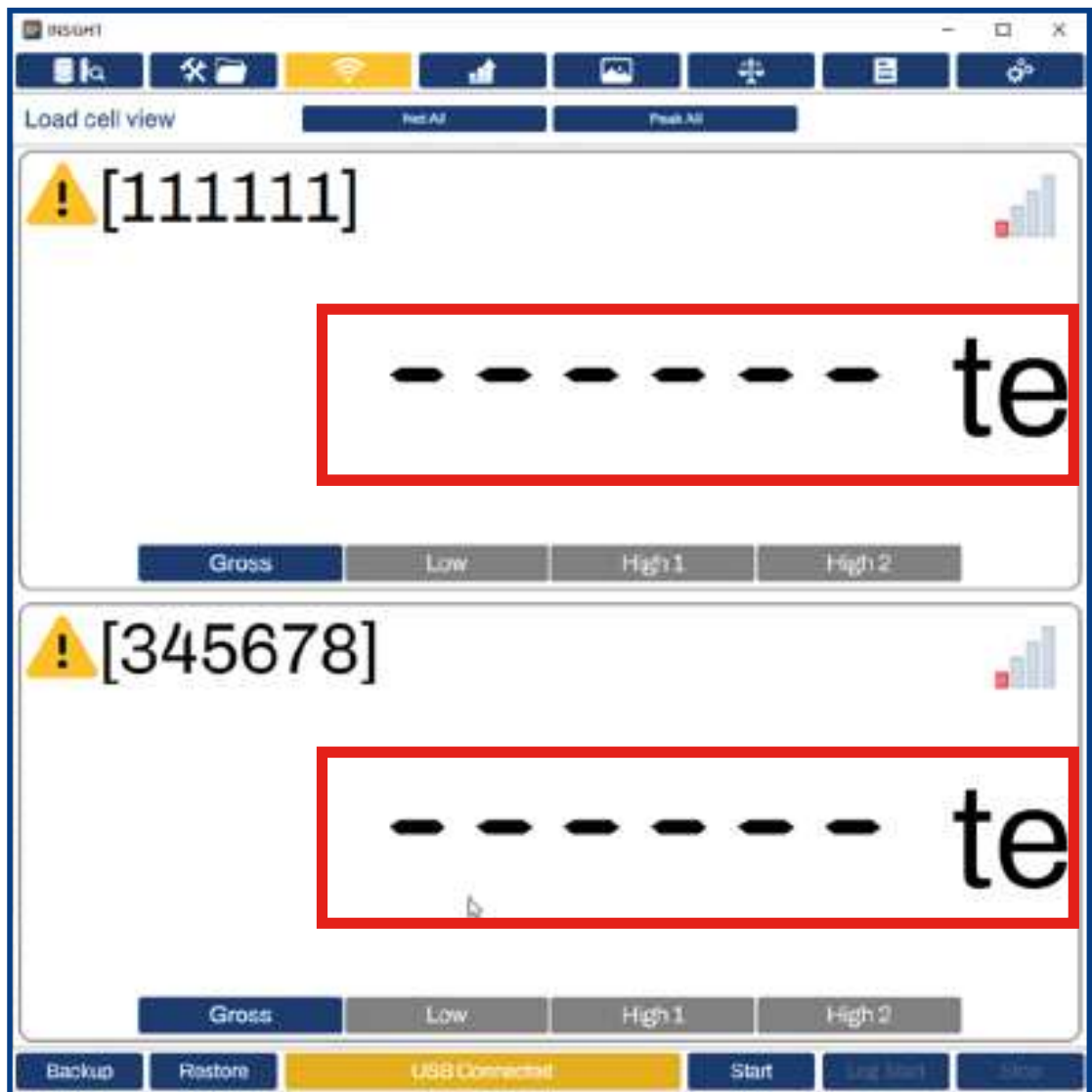
SAVE(保存)ボタンをクリックしてプロジェクトロードセルに関わる全ての設定を保存してください。

データ読取

プロジェクトの設定が完了すると、ロードセルディスプレイ画面からロードセルの読取値を表示させることが出来るようになります。下記アイコンをクリックしてください。



プロジェクトに関連付けたロードセル及び数式がディスプレイ内に表示されます。下図はロードセル2台が割り当てられた場合のディスプレイ画面です。

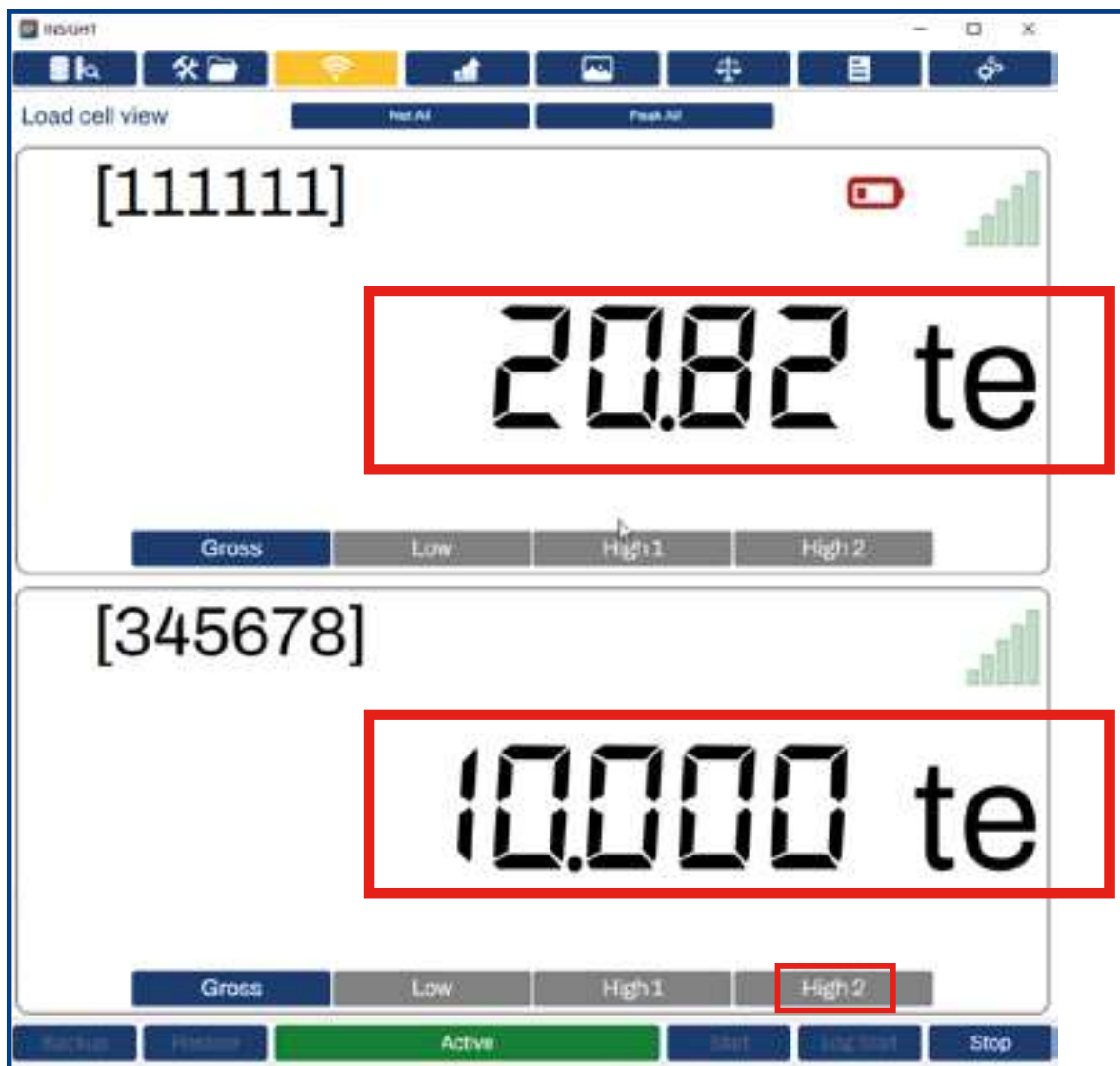


ディスプレイにはプロジェクトで割り当てたロードセル及び数式が個別にボックスに表示されます。ボックス内にはそれぞれdescription(表記名)と読取値が表示されます。(上図では読取を開始していないので読取値は-----と表示されています)

画面下部の**Start**(読取開始)ボタンをクリックすると、インサイトが読取を開始し、ロードセルからの読取値が表示されます。

既存のプロジェクトは、プロジェクト設定の **Projects**(プロジェクト)ボタンから選択できます(P.11)。同じ手順に従い、データ読取を開始してください。

データ読取 (続き)



Gross

読取値はグロス(風袋引き前の荷重、全体量、総量)を表します。
Grossをクリックするとネット(風袋引き後の荷重、純量、正味量)表示に切り替わります。

Net

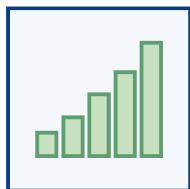
読取値はネット(風袋引き後の荷重、純量、正味量)を表します。
Netをクリックするとグロス(風袋引き前の荷重、全体量、総量)表示に切り替わります。



Low/High 1/High 2下限/上限1/上限2)アラームを表します。
各ステータスが灰色の場合はアラーム設定が無効になっています。
緑色の場合はアラーム設定が有効になっています。

ディスプレイのアイコン

オーバーロード(Overload)、ロードセル内部のエラー (LC error)、校正期限超過、バッテリー残量の低下が発生した場合、各ロードセルのボックス内に警告やエラーが表示されます。



RF Signal Level (無線電波強度)

無線電波強度は5本のバーで表示され、塗りつぶし部分が多いほど高い電波強度を表します。

OVERLOAD

Overload Warning (オーバーロード)

読取値がプロジェクトで設定されたオーバーロード%を超過した場合にこのテキストが表示されます。



Load Cell Error(ロードセルエラー)

ロードセル内部でmV/V値が異常値を記録したことを表します。このアイコン表示が消えない場合は、弊社までお問い合わせください。

Low Battery (バッテリー低下)



これは一時的に表示される警告で、新しいバッテリーをロードセルに挿入すると消えます。



Overload Error (オーバーロードエラー)

ロードセルの読取値が使用荷重を10%以上超過した場合に表示されます。内部のひずみゲージが損傷している可能性があるため、再校正する必要があります。弊社までお問い合わせください。



Communication Error (通信エラー)

インサイトが一時的又は恒久的にロードセルとの通信を消失している場合に表示されます。考えられる原因としては、データ読取の停止(STOPボタン)、ロードセルのバッテリー残量低下、ロードセルとの通信エラーがあります。



Calibration Due Warning Error (校正期限超過の警告)

ロードセルがストレートポイント社で校正されてから約1年が経過しており、再校正が必要です。これはロードセルが再校正されるまで表示され続けます。再校正のご依頼は弊社までお問い合わせください。

チャート機能



チャート機能では読取値をチャート表示させることが出来ます。データ読取中は、メインチャートに表示されるグラフは現在のタイムラインに合わせて絶えず移動します。

画面下部には作成されたグラフ全体を表すシャドウグラフが表示され、その上に長方形のシャドウブロックが重ねられています。これは、現在のメインチャートに表示されているグラフ部分を表すカーソルとして機能します。**Stop**(停止)ボタンでデータ読取を停止してからこのカーソルをマウスで左にドラッグすると、メインチャートに別のタイムラインのグラフを表示できます。**Stop**(停止)ボタンを押さないと現在のタイムラインに戻されます。

- 画面下部の**Start**(読取開始)ボタンをクリックすると、データ読取と同時にグラフ作成が開始されます。
- グラフを消去し新たに作成する場合は**Clear**(消去)ボタンをクリックしてください。
- データ読み取り及びグラフ作成を停止する場合は**Stop** 停止 ボタンをクリックしてください。
- タイムラインを拡大又は縮小する場合は、メインチャート上でマウスホイールをスクロールしてください。
- グラフの別の部分を見る場合は、カーソルをクリックしてホールドし、左右にドラッグしてください。
- **Max History**(最大履歴)欄には、バッファが上書きされるまでに保存される読取データの数量(グラフサイズ)を表します。
- **Recording Interval**(記録周期)は読取値を取り込み、グラフに反映させるまでの時間間隔を表します。
- ロードセルをグラフから削除する場合は、ロードセル名(Description)横の☑の✓を外してください。
- グラフイメージをjpeg又はpng ファイルで出力したい場合は**Export**(出力)ボタンをクリックしてください。
- グラフイメージサイズを調整する場合は、**Export size**(出力サイズ)の矢印ボタンをクリックしてください。

ビジュアル化機能

ビジュアル化機能では、リアルタイムのデータ読取とともに、現場画像を背景にすることでロードセルのセットアップ状況を可視化することが出来る機能です。

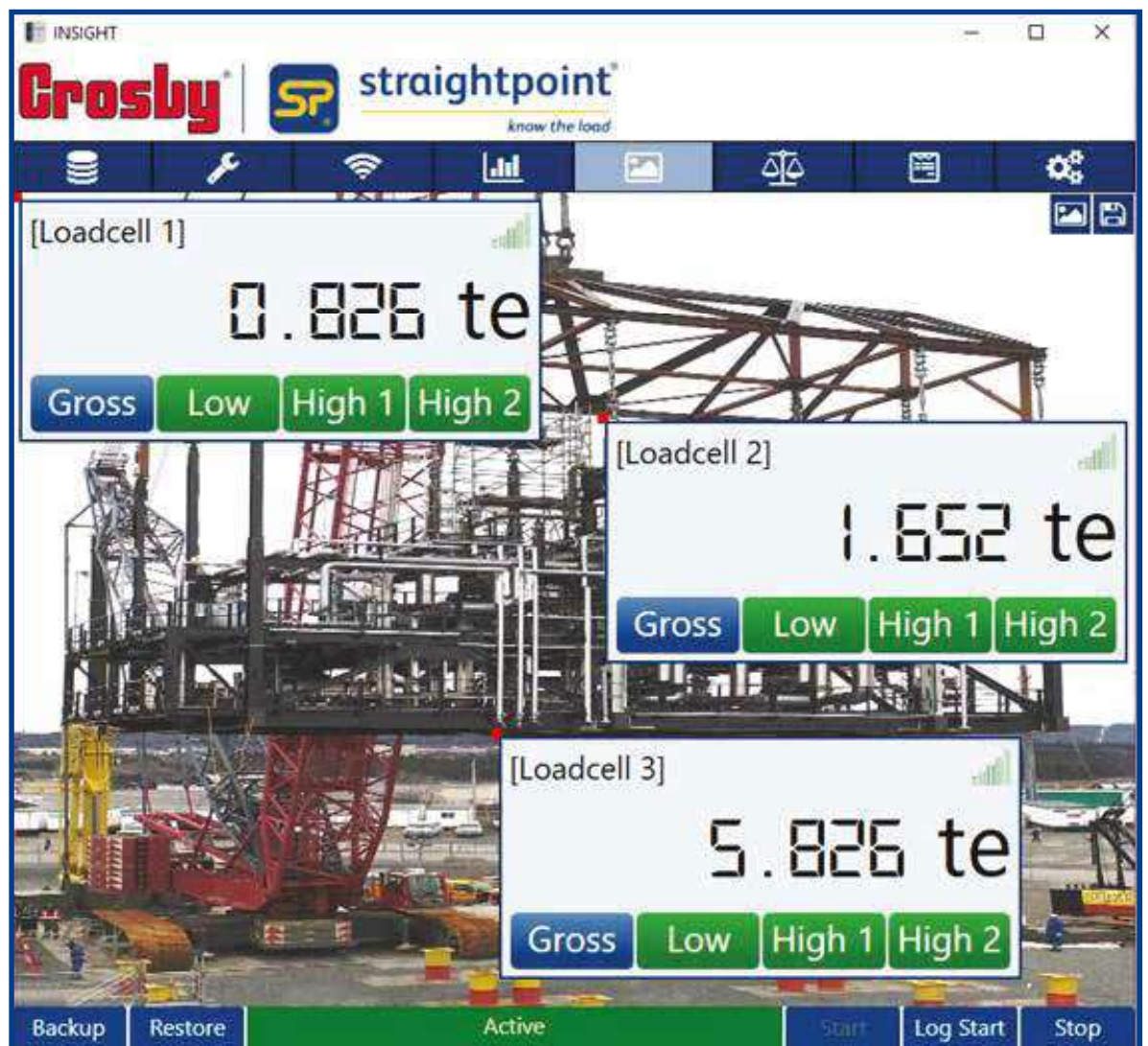


現場画像は、画面右上端にある**Load Image**(現場イメージ、左図)ボタンをクリックしてアップロードできます。次に各ロードセルのデータボックスをドラッグして画像の任意の位置にそれぞれ配置します。この作業が完了したら画面右上端の**Save**(保存、右図)ボタンをクリックしてください。



注記:

- **Save**(保存)ボタンをクリックすると、データ読取は自動的に停止されます。データ読取を再開するためには**Start**(読取開始)ボタンをクリックしてください。
- 各ロードセルのデータボックスは、はじめ画面左端に全て重なっています。一つずつマウスでドラッグして移動させてください。



レポート機能

レポート機能では、現在のロードセルの読取値を取得しプレーンテキストまたはHTML形式のレポートを作成できます。



Generate Report(レポート作成)ボタンをクリックすると、ソフトウェアがテンプレートからレポートファイルを自動的に生成し、レポートファイルにプロジェクト名などを含むプロジェクト設定や読取データを書き込みます。次に、レポートファイルがレポート出力ディレクトリーに出力され、ユーザーはそこからレポートを確認できます。

またレポート機能では各種トークンを使用してカスタムレポートテンプレートファイルを柔軟に作成することもできます。レポートを作成するには、最低でもテンプレートファイルを編集または新規作成し、ロードセルのシリアル番号を記入する必要があります。

プレーンテキストまたはHTMLファイルで使用できるトークンは次のとおりです。

トークン	内容:
++PN++	プロジェクト名
++DT++	現在の日付 表記「日にち 月 年数」
++TM++	現時刻 HH:MM:SS
++SD[xxxxxx]++	ロードセルの説明 [xxxxxx]
++SV[xxxxxx]++	ロードセルの読取値 [xxxxxx]

トークン化されたプレーンテキスト形式レポートの例です:

Project - ++PN++

Example Simple Text Report

Date: ++DT++

Time: ++TM++

Load Cell	Description	Value
[123411]	++SD[123411]++	++SV[123411]++
[123422]	++SD[123422]++	++SV[123422]++

上記テンプレートから出力されるレポートイメージは次の通りです。

Project - *project*

Example Simple Text Report

Date: *29 April 2019*

Time: *16:39:05*

Load Cell	Description	Value
[123411]	<i>123411</i>	<i>23.36</i>
[123422]	<i>123422</i>	<i>20.80</i>

レポート機能 (続き)



Report templates window
(レポートテンプレート一覧)
から使用したいテンプレート
を選択してください。(お客様
が作成したカスタムテンプレ
ートもここに表示されます)

レポートの作成方法:

1. **Report Template Directory**(レポートテンプレート保存先)を指定します。利用可能なテンプレートが **Available Report Templates**(利用可能なテンプレート) ウィンドウに表示されます。

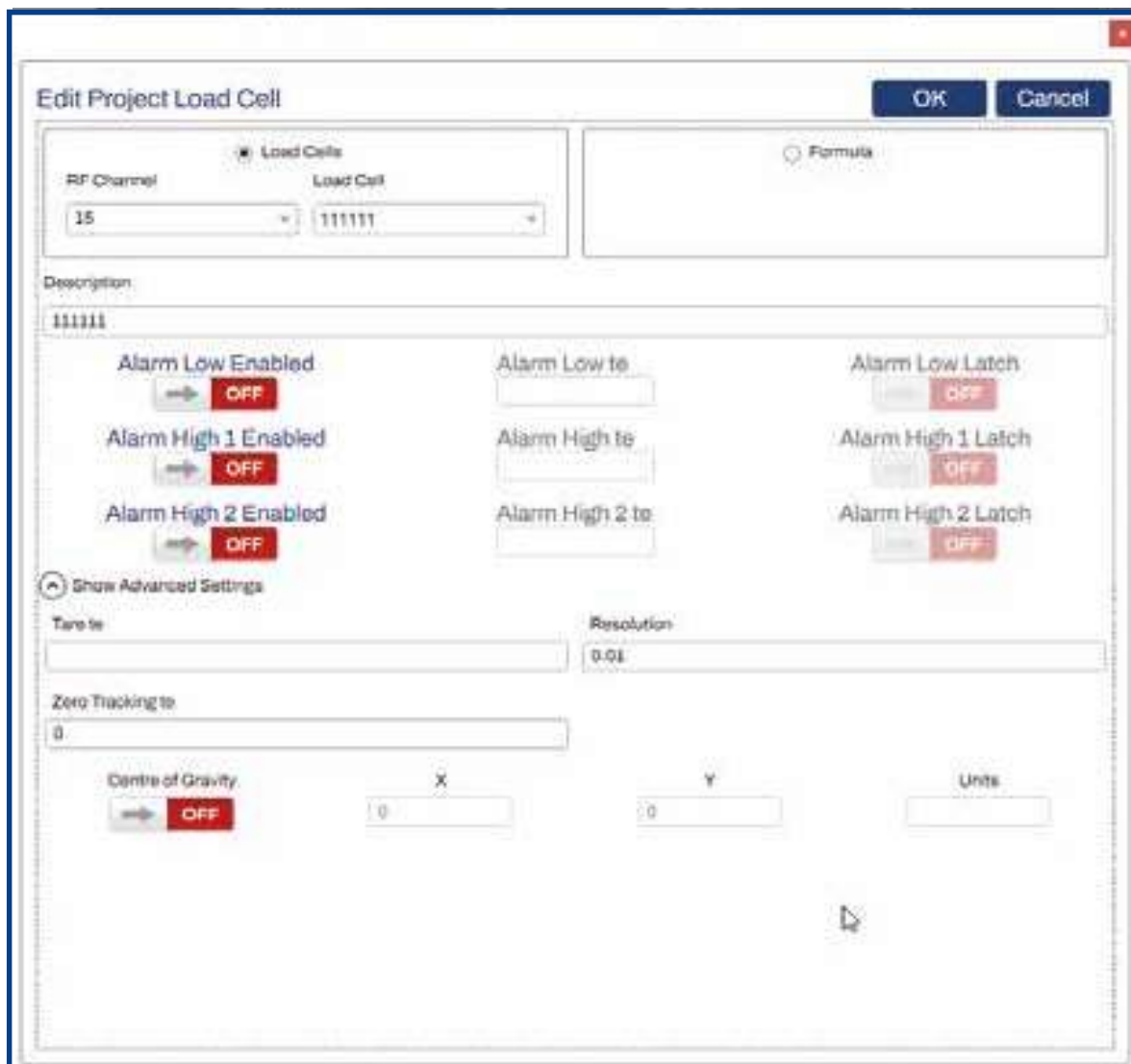


2. **Report Output Directory**(出力レポート保存先)を指定します。
3. 画面右下端の**Start**(読取開始) ボタンをクリックして、データ読取を開始します。
4. **Available Report Templates**(利用可能なテンプレート) ウィンドウから使用するテンプレートをクリックしてハイライトします。
5. **Generate Report**(レポート作成) ボタンをクリックします。
6. レポートが作成され、新しい画面に表示されます。レポートは**Report Output Directory**に保存されます。

重心測定(CoG)機能

重心測定機能では、吊り荷の重心位置の計算及び可視化、重心レポートの作成を行うことができます。

重心測定機能を利用するためには、まず**Edit Project Loadcell**(プロジェクトロードセルの設定)内の**Advanced Settings**(高度な設定)で使用するロードセルの位置情報となるX座標とY座標を指定する必要があります。**Center of Gravity**項目をON(有効)にし、ロードセルの位置座標を入力してください。座標の**Units**(単位)は任意の単位に設定してください。



各ロードセルの位置情報をすべて入力したら、メニューバーにあるCoGアイコン(左図)をクリックして重心測定画面に移動してください。



重心測定(CoG)機能 (続き)

次にEnter the Job Details(ジョブ詳細の入力)ボタンから下記項目を入力し保存してください。



重心レポートの保存先はデフォルトではc:\users\your-name\documents\insight\CoG reports ですが、**Change Folder**(保存先フォルダーの変更)オプションから変更することが可能です。

また、レポートのヘッダーに記載される会社住所や会社ロゴイメージは**Change Report Header**(レポートヘッダーの変更)オプションから変更可能です。

もしデータ読取を開始していない場合、**Start**(読取開始)ボタンをクリックして読取値のキャプチャーを開始してください。読取値はデータ読取画面と同じく重心測定画面からも確認できます。

重心測定画面(下図)では重心位置が可視化されて表示されます。各ロードセルの位置情報及び読取値は青い円で表現されます。円の大きさが読取値の大きさを表します。

Net All / Gross All(全てネット/グロス表示)をクリックすると読取値をネット又はグロスに切り替えられます。



重心位置は左図中央の円と十字線を組み合わせたマークで表されます。

重心測定(CoG)機能 (続き)

重心レポートでは重心の位置座標と計測対象物の重量を割り出すことができます。ドロップダウンメニューから記録する回数を選択してください。規定値は3回で最大10回まで選択可能です。

対象物が安定していることが確認できたら、レポート作成のための記録を開始します。

画面左上部にある**Record 1, Record 2 ~ Record N**(記録1、2…N回)ボタンを順番にクリックし、読取値をキャプチャーして記録を取っていきます。

各**Record**(記録)ボタンは一度クリックするとグレイアウト(選択不可)します。記録した値は直下の**review**(確認)ボタンから確認でき、そこから記録の削除及びやり直しを選択することもできます。

全ての記録が完了したら、**Generate Report**(レポート作成)ボタンをクリックしてください。html形式レポートが下記の通り出力されます：

Crosby		SP		address1 address2 address3 address4 po9 1as	
Crosby Straightpoint					
WEIGHING RESULTS					
<i>Project</i>					
Date:	Tuesday, 11 June 2024				
Operator:	GRM				
Project:	LP LR				
Project Number:	XB1234				
Client:	ACME Lifting				
COG Units:	meters		Weight Units:	kg	
Environmental Conditions					
Temperature:	15	Wind Speed:	2	Wind Direction:	SSE
Coordinates					
Cell Position:	Cell Description	X	Y		
1	[111111]	1	1		
2	[999999]	2	2		
3	[345678]	3	1		
Load Cell Input					
Cell Position	Description	Weighting 1	Weighting 2	Weighting 3	Mean
1	[111111]	7.3	7.3	7.3	7.3
2	[999999]	9.8	9.8	9.8	9.8
3	[345678]	9.6	9.6	9.6	9.6
TOTALS:		26.7	26.8	26.7	26.6
COG Result					
COG X	Weighting 1	Weighting 2	Weighting 3	Mean	
	2.66346	2.65426	2.66224	2.66263	
COG Y	1.36859	1.36772	1.36904	1.36826	
MEAN TOTAL WEIGHT (T):		26.7	Mean Centre of Gravity		
Standard Deviation Weight:		0.05	COG X	2.66263	
Standard Deviation in Percent:		0.19	COG Y	1.36826	
Notes:					
Notes1					
Notes2					
		Name	Signature	Date	
Client Representative					
Customer Representative					

重心測定(CoG)機能

出力されたレポートは**COG Reports directory** (重心レポート保存先)に格納されます。レポートの保存先は**View Reports**(レポートの閲覧)タブから選択することができます。

プルーフテストプラス(PTP)機能



プルーフテストプラス機能(PTP)は、安全な距離からの非破壊試験やプルーフ試験の遠隔モニタリングを可能にします。試験データは証明書で出力できるほか、ブラウザから直接PDFファイルを印刷・転送・保存することもできます。

代表的な用途は次の通りです：

- ・ ウォーターバッグやブロックウェイトを使用してのクレーン性能試験
- ・ パッドアイやフライポイントの強度試験
- ・ ワイヤロープ式ガードレールや防護柵の張力検査
- ・ 建設(支柱やまぐさでの支保工等)
- ・ 吊り天秤の強度試験
- ・ 油圧 シリンダーの負荷試験
- ・ スリング、チェーン、ワイヤロープ、フックなどの吊り具試験

PTPの特長は次の通りです：

- ・ 使いやすい操作画面
- ・ 100%ワイヤレス - ケーブル破損等、有線式システムで発生する問題を解消
- ・ 最大700mの通信距離により試験現場から安全な距離を保つことができ安全
- ・ 全てのSP無線式ロードセル(TSモデル)を接続可能
- ・ データ読取スピードが最大200Hz
- ・ 試験合格/不合格証明書をデジタル署名付で自動作成
- ・ 荷重値の推移をグラフでリアルタイム表示
- ・ 風速、海況等を自由に記入できる入力フィールド

PTP機能の操作手順は次の通りです。

- ・ 参照ロードセルの選択を含むプロジェクトの作成
- ・ 証明書の発行者情報の記入(通常初回のみ)
- ・ 参照ロードセルの選択
- ・ 顧客情報の記入または選択
- ・ 試験情報の入力
- ・ 試験エンジニア情報の記入又は選択
- ・ プルーフテストの実施
- ・ 試験報告書(証明書)の出力



ご注意ください


ストレートポイント製無線式ロードセルの取り扱い及び使用は、同梱されている取扱説明書に記載されている内容に沿って適切に行われるものとします。ジャッキ、油圧シリンダー、チェーン、吊り治具、その他の荷役機器等と組み合わせて使用する場合には、各メーカー/サプライヤーから提供される情報および関連する全ての規制要件と業界基準や実施規則に従って、適切に取扱い、使用、確認及び点検されるものとします。

証明書発行者情報の入力(company set up)

PTP証明書を作成するためには、以下の4つの情報が必要です。

- ・ 試験エンジニア情報
- ・ 顧客情報
- ・ 証明書発行者情報
- ・ 試験情報

試験情報を除き、全ての情報はPTPメイン画面から事前に登録して後から選択するか、プルーフ試験と併行してその場で新規作成することも可能です。

プルーフ試験を開始する前に、**Project Setup** (プロジェクト設定)  オプションから、試験に使用するロードセルが割り当てられたプロジェクトを選択しておいてください。また、表示単位(te, lbs, kg kN)についてもプロジェクトで予め選択しておいてください。



PTP機能を初めて利用する場合、まず証明書発行者情報(Company set up)の入力が求められます。

The screenshot shows a web browser window titled 'INSIGHT' with a toolbar. The main content is a form titled 'Proof Test Plus - company set up'. The form has the following fields: 'Company Name:' (red border), 'Address:' (red border), 'Telephone:' (red border), 'URL:' (red border), 'Zip/Post Code:' (red border), and 'Certification Prefix:' (white border). There is a 'Browse...' button for a logo (320px X 95px Recommended) and a 'Save' button at the bottom.

空欄に各情報を入力できたら**save**(保存)ボタンをクリックしてください。赤枠は必須項目です。

ここで入力した情報は証明書にはヘッダー一部分に記載されます。

またこれらの情報はPTPメイン画面の**View/Edit Issuer Details**(発行者情報の閲覧/編集)から編集可能です。



この設定はPTP機能を初めて利用する場合に必須の作業です。ここで入力した情報は各PCに割り当てられたアクティベーションコードに紐付けされます。全ての情報が正しいことを確認したうえで**Save**(保存)ボタンを押してください。

証明書発行者情報の入力(続き)

Proof Test Plus - company set up

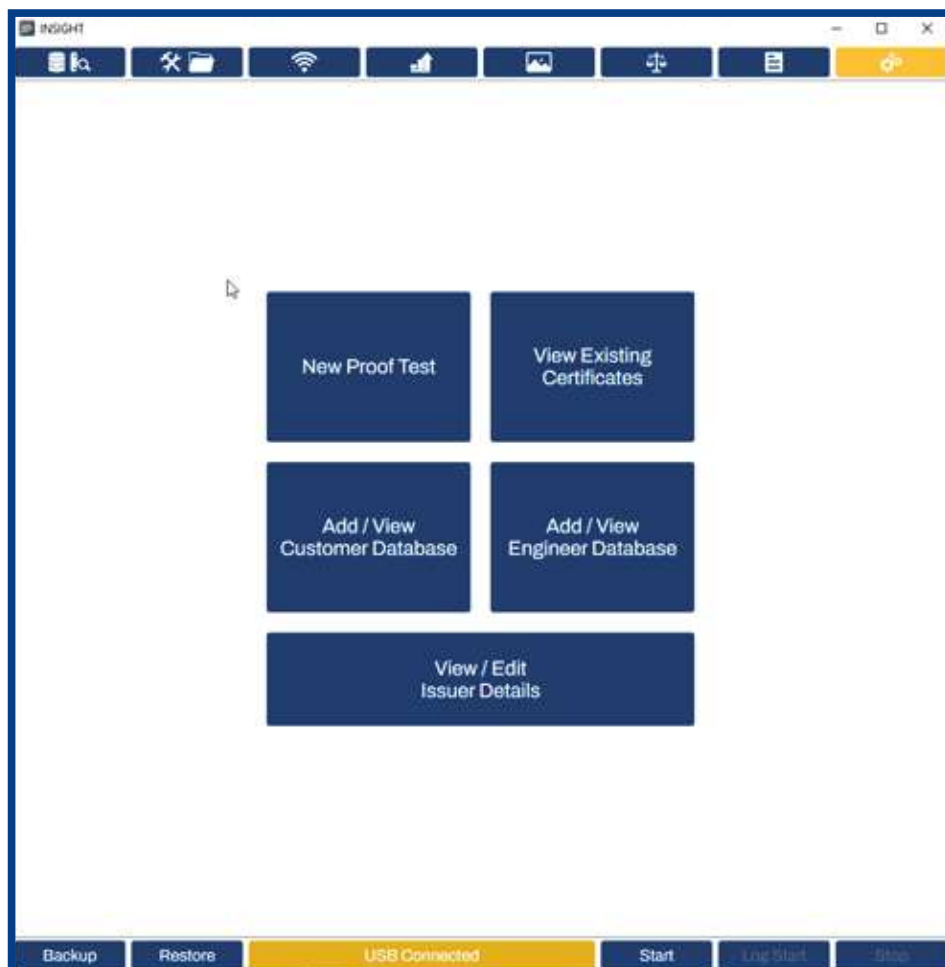
Company Name:	Crosby Straightpoint	Zip/Post Code:	PO7 3DU
Address:	123 Proxima Park	Telephone:	02392 464491
	Houghton Ave	URL:	HPPTS://www.straightpoint.com
	Waterlooville	Certification Prefix:	CRSP:
	Hampshire		

Logo: (320px X 95px Recommended)

Crosby | **SP**

Backup Restore **USB Connected** Start Log Start Stop

証明書発行者情報の入力・保存が完了すると、PTPメイン画面(下図)が表示され、以後PTP機能の利用時にはまずこの画面が表示されるようになります。



ロードセルの選択(New Proof Test)

メイン画面のNew Proof Test(新規プルーフテスト)をクリックして次の工程に進みます。

先述したように、プルーフテストを開始する前にProject Setup(プロジェクト設定)  から試験に使用するロードセルが登録されているプロジェクトを選択しておいてください。

下記画面ではプロジェクトに割り当てられているロードセルの一覧が表示され、その中からプルーフテストに使用するものを最大2台まで選択することができます。

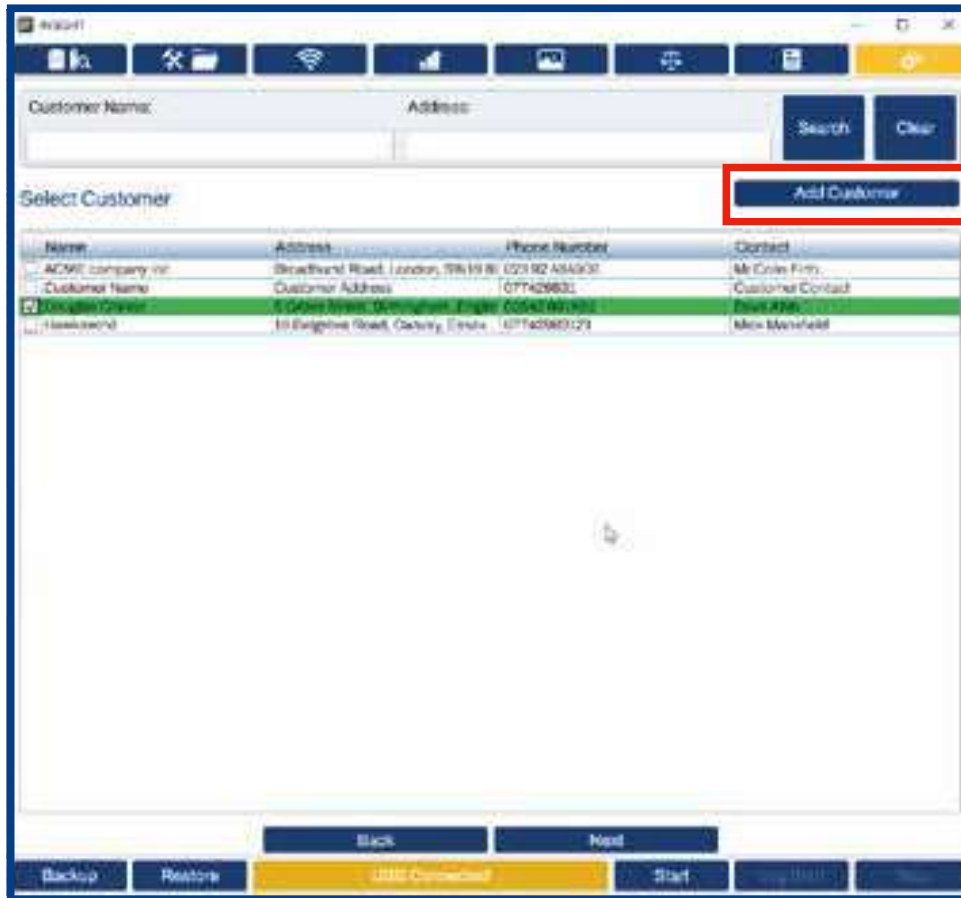


ロードセルの校正期限が切れている場合、警告メッセージがポップアップ表示され、このまま登録を進めるか、スキャンを再実行(ロードセルを選び直す)するか質問されます。もしロードセルが再校正済みの場合、インサイトがその情報を更新できていないと考えられます。再スキャンすることで問題を解決できます。

もしロードセルの再校正がされていない場合、このままプルーフテストを実施することは可能ですが、最終的に出力される証明書には「試験に使用されたロードセルはメーカーの推奨する校正期限を超過しています」と記載されます。

顧客情報の入力(Customer Database)

試験に使用するロードセルを選択出来たら、画面下部のnext 次へ進む ボタンをクリックして顧客情報の入力画面に進みます。



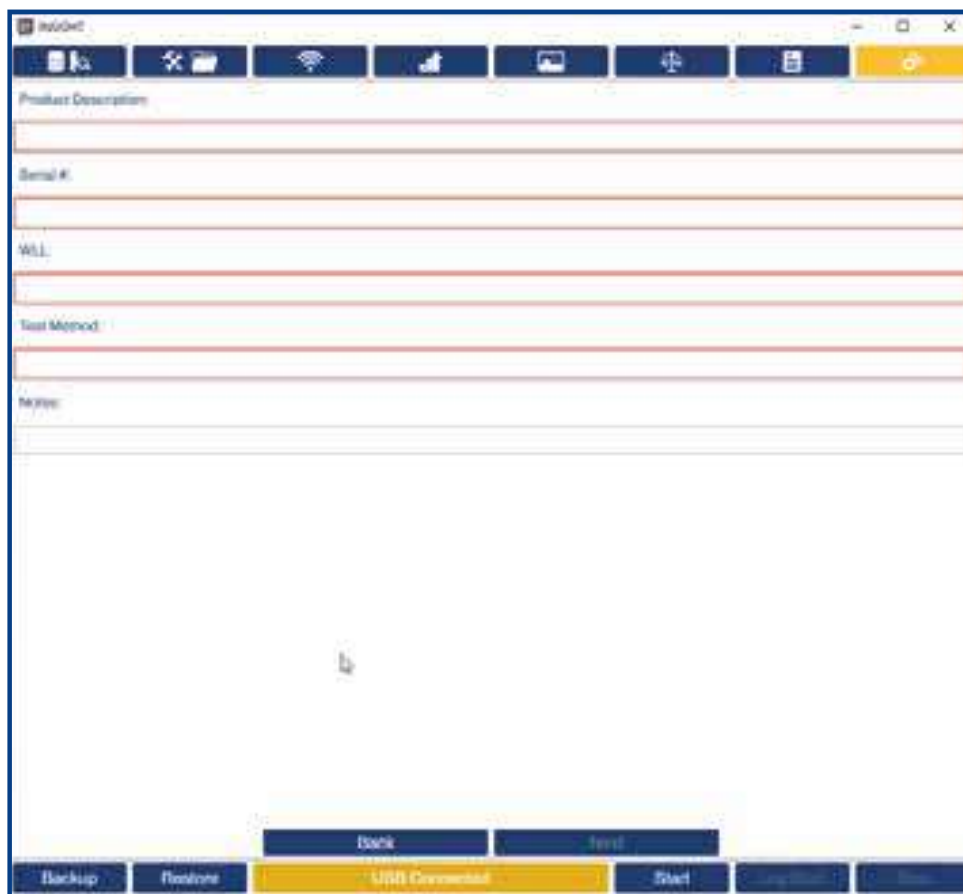
登録された顧客情報が無く新規作成が必要な場合はadd customer 顧客を追加 ボタンをクリックして新規作成してください。

また顧客情報の入力はメイン画面のAdd/View Customer Database(顧客情報の追加/閲覧)ボタンから行うことができます。



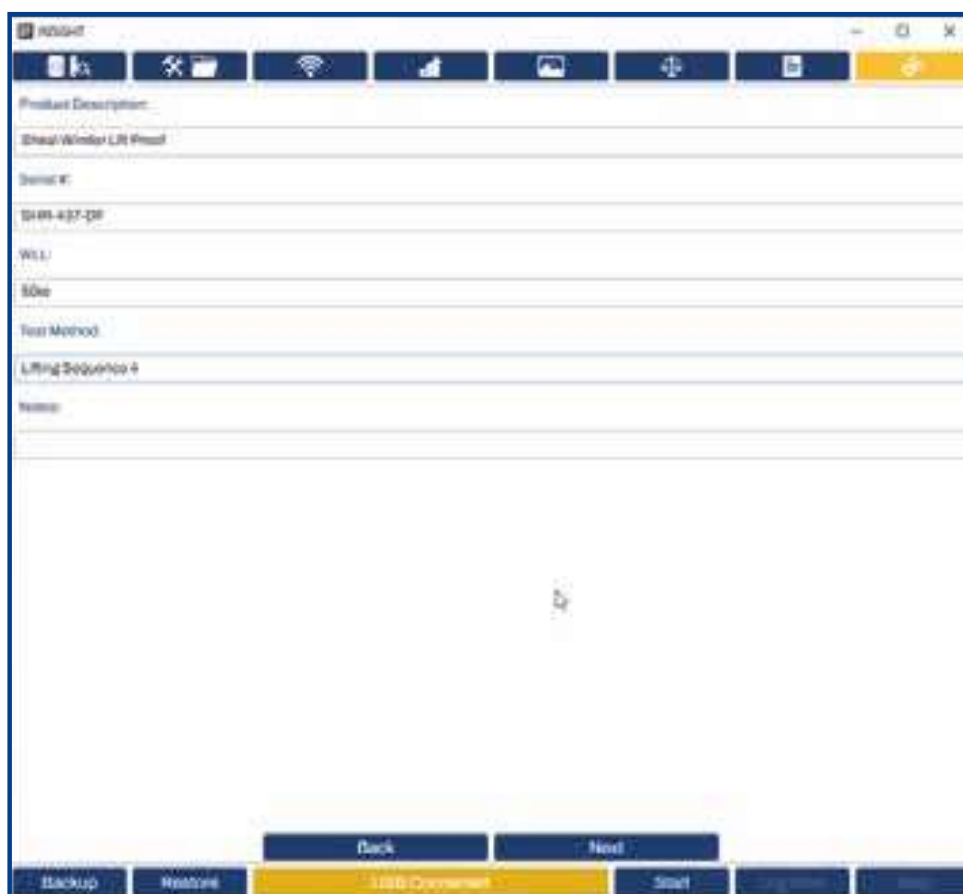
顧客情報の選択が完了したらnext(次へ進む)ボタンをクリックして試験情報の入力に進んでください。

試験情報の入力



The screenshot shows a mobile application interface for entering test information. The screen is titled "PTPO" and features a top navigation bar with icons for Home, Back, Wi-Fi, Signal, Camera, and Settings. Below the navigation bar, there are several text input fields, each with a red underline indicating it is a required field. The fields are labeled: "Product Description", "Serial #", "W.L.", "Test Method", and "Notes". At the bottom of the screen, there is a navigation bar with buttons for "Backup", "Restore", "USB Connected", "Start", and "Exit".

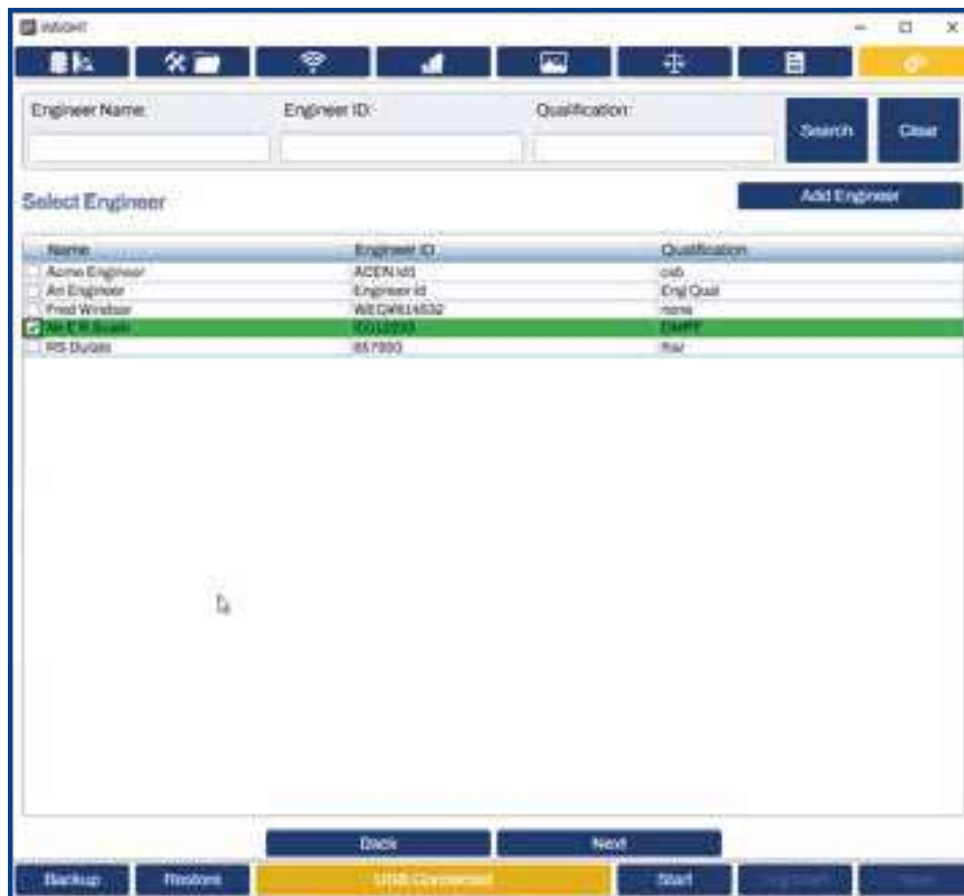
テキスト形式の空欄に試験情報を入力します。赤枠は必須項目です。



The screenshot shows the same mobile application interface as the previous one, but with test information entered into the required fields. The "Product Description" field contains "Shear Window LH Proof", the "Serial #" field contains "D46-437-0P", the "W.L." field contains "E06", and the "Test Method" field contains "Lifting Sequence 4". The "Notes" field is empty. The navigation bar at the bottom remains the same.

試験エンジニア情報の入力

試験情報の入力が完了したら、**next**(次へ進む)ボタンをクリックしてください。
試験エンジニア情報の入力画面に移動します。



上記画面からエンジニアの追加・選択を行います。
完了したら**next**(次へ進む)ボタンをクリックし、プルーフテストを実行します。

プルーフテストの実施

プルーフテストの実施にあたって、まずテストスコープ(テスト対象、範囲等)の詳細を入力します。



1. Load Test To(試験荷重)
 テストで負荷する最大試験荷重を入力します。読取値の表示単位はプロジェクトでの設定(P.11)が適用されます。

次に**threshold percentage(閾値%)**を入力してください。荷重値がこの閾値を超過するとPTPがログを開始し、レポート上にグラフで表示されるようになります。
 この値の規定値は10%です。上記試験荷重を50tに設定した場合、閾値は5tとなります。

- 読取間隔を入力します。規定値では0.5秒(2回/秒)に設定されていますが、最大200回/秒まで調整できます。
- PEAK(ピークホールド)**設定の有無を選択します。チェックボックスに✓を入れると、テスト中は荷重値及びグラフはピーク値のみを表示し続けます。✓を入れない場合は、リアルタイムの荷重値及びグラフを表示します。
- Net(ネット)**又は**Gross(グロス)**表示を選択します。**Net(ネット)**ボタンを押すと風袋引き設定となり、現在の荷重値を0と表示します。
- 全てのデータを入力できたら、画面下部の**Start(読取開始)**ボタンをクリックしてテストを開始してください。

テスト中、荷重値は(下図赤枠) 次の通り表示が変化します:

- 黒色** - インサイトとロードセル間の通信がありません。
- 黄色** - ロードセルとの通信は正常に行われていますが、荷重値は**threshold(閾値)**に達していないため、グラフは表示されていない状態です。
- 緑色** - 荷重値が閾値を超えた状態です。値はグラフに表示され、ログも開始されています。
- 赤色** - 荷重値が**load test to(試験荷重) × オーバーロード%(プロジェクトの設定で指定、通常101%、P.12参照)**の計算値を超えた状態です。従って、**load test to(試験荷重)**が50tでオーバーロード%が101%の場合、50.5tの荷重値が表示されます。



画面上にはテスト中の荷重値の推移がグラフで表示され、同時に**live read window(ライブ読取値ウィンドウ)**には現在の読取値(左図赤枠)が表示されます。

Load Test To(試験荷重)に到達するとテストは完了し、**Stop(停止)**又は**Save(保存)**ボタンをクリックできるようになります。(Saveボタンを押しても計測は停止します)

Stop(停止)ボタンを押した場合は、**Save(保存)**ボタンをクリックして、テスト可否確認画面へ移動します。



テストをやり直したい場合は、画面下部の**reject**ボタンをクリックしてテスト結果を破棄し、テストを再開してください。

テストが完了し証明書を発行する場合はテスト結果に応じて**Unacceptable**(不合格)又は**Acceptable**(合格)ボタンをクリックします。次に**Save**(保存)ボタンをクリックすると、証明書が発行されます。

Save(保存)ボタンをクリックすると、PTPメイン画面に移動します。**View Existing Certificate**(発行済みの証明書の閲覧)ボタンがクリックできるようになり、証明書の閲覧や印刷が行えます。

発行済み証明書の閲覧

テストが完了し前述の工程を終えると、下記PTPメイン画面に戻ります。



1. **View Existing Certificates** (発行済み証明書の閲覧)ボタンをクリックすると次のような画面が表示されます。



2. 緑色の証明書はテスト結果が合格したものを表します。
赤色の証明書はテスト結果が不合格のものを表します。

レポート/証明書は画面上部の検索ウィンドウからCustomer name(顧客名)やserial number(シリアル番号)から検索をかけることもできます。

3. View Report(レポートを閲覧)ボタンをクリックすると、PTP証明書が表示されます。
4. レポート/証明書を削除する場合はDelete(削除)ボタンをクリックします。
(ポップアップ画面が表示され削除の確認を求められます)



レポート/証明書は保存、印刷、eメールでの送信及びExcelやその他プログラムへのエクスポートが可能です。

テスト結果を **UNACCEPTABLE** (不合格)とした場合は、上記グラフはレポートには表示されず、テスト不合格を示す代替テキストが記載されます。

PTPデータベースの管理



PTPメイン画面の各種データベースでは、顧客情報や試験エンジニア情報を事前入力することでテスト中のこうした入力作業を避けることができます。

顧客情報やエンジニア情報は複数名の登録ができます。登録した情報は検索や編集も可能です。

新規登録する場合は、各画面で**Add Customer/Engineer** (顧客/エンジニアを追加) ボタンをクリックし、必要な情報を入力後に保存してください。

Add / Edit Customer Database (顧客情報データベースの追加・閲覧)



Add / Edit Engineer Database (試験エンジニアデータベースの追加・閲覧)



Edit / View Issuer Details (証明書発行者情報の編集・閲覧)



証明書発行者情報については、登録は1社のみです。プルーフテストの証明書を発行する会社を登録してください。

データロギング(記録)

データロギングを開始するためには、ロードセルと接続できていることを確認して**Log Start**(ログ開始)ボタンをクリックしてください。**Start**(読取開始)を押してインサイトがデータ読取をしている間は、標準メニューの多くがグレイアウトして選択できなくなります。**stop**(停止)ボタンをクリックしてデータ読取を中止することでメニューへアクセスできるようになります。

ログデータのファイル形式

ログデータファイルはプロジェクトで指定された**logging directory**(ログデータ保存先、P.12参照)に保存されます。デフォルトではc:\users\your_name\documents\insight\logsです。ファイル名は次の通りです:

Insight.20YY-MM-DDTHH-MM-SS.csv

ファイル名は各地域の日付と時刻が基準となります。

例えば: **Insight.2019-04-25T10-48-38.csv** は2024年4月25日10時48分38秒に作成されたファイルです。

ログファイルは標準のコンマ区切り(CSV)形式で保存され、お好みのスプレッドシートで開くことができます。

データには**date**(日付)、**time**(時刻)、**Elapsed time(ms)**(経過時間(ミリ秒))の後に**load cell serial number(s)** ロードセルシリアル番号 が続くヘッダ行が1行含まれます。

CSVファイルの例:

Date	Time	Elapsed Time (ms)	123411	333333
2019-07-02	11:31:53	5000	14.580	16.088
2019-07-02	11:31:58	10000	14.580	16.089
2019-07-02	11:32:03	15000	14.580	16.088
2019-07-02	11:32:08	20000	14.580	16.090
2019-07-02	11:32:13	25000	14.577	16.086
2019-07-02	11:32:18	30000	14.577	16.089
2019-07-02	11:32:23	35000	14.576	16.089
2019-07-02	11:32:28	40000	14.578	16.087

上記例でいうと、1行目の123411、333333はロードセルのシリアル番号です。

Elapsed Time(経過時間)は、ログ間隔を1秒未満で設定した場合に参考にしてください。

データのバックアップと復元

インサイトで設定したプロジェクトや各種設定はバックアップを取り、復元することができます。



バックアップ機能は、プロジェクトデータを誤って削除してしまった時のことも考え、定期的を使用することをお勧めします。

インサイトのデータを保存するには、画面左下隅の**Backup**(バックアップ)ボタンをクリックしてください。これにより、現在の設定がconfiguration.xml というファイルに保存され、デフォルトでINSIGHT Directoryに保存されます。

バックアップしたプロジェクトや各種設定はいつでも**Restore**(復元)ボタンを使って復元することができます。

復元ボタンには、もう一つのオプション機能があり、Crosby Straightpoint社が提供するプロジェクト設定やロードセルの詳細をインストールすることも可能です。

アイコン一覧

インサイトの画面中で見られる各種ボタンやアイコンの意味を簡単に説明します。



INSIGHT
(インサイト)

インサイトのデスクトップアイコンです。ダブルクリックするとインサイトを立ち上げます。



Load Cell Database
(ロードセルデータベース)

このメニューをクリックすると、ロードセルのデータベース登録画面に移動します。(P.9,10)



RF Signal Level
(無線電波強度)

ロードセルからの無線電波の強さを表します。



Project Settings
(プロジェクトの設定)

このメニューをクリックすると、プロジェクトの設定画面に移動します(P.11~16)。



Load Cell Charts
(ロードセルのチャート表示)

このメニューをクリックすると、チャート画面に移動します。(P.21) データ読取中、グラフはリアルタイムで更新されて表示されます。



Projects
(プロジェクト)

過去に設定したプロジェクト一覧を参照します。



Load image
(現場画像を貼付)

ビジュアル化機能(P.22)で背景に貼り付けする画像を参照します。



Alarm
(アラーム)

データ読取画面(P.18,19)中のLow/High/High2アラームアイコンが赤色になった場合、読取値がアラーム閾に達したことを表します。値



Save
(保存)

ビジュアル化機能(P.22)で背景に貼り付けた画像を保存します。



Load Cell Displays
(データ読取)

このメニューをクリックすると、データ読取画面(P.18,19)に移動します。



Generate Report
(レポート生成)

このボタンをクリックすると、インサイトは自動的にレポートを生成します。



Centre of Gravity
(重心)

このメニューをクリックすると、重心計測画面(P.25~27)に移動します。



Proof Test Plus Software
(プルーフテストプラス(PTP))

このメニューをクリックすると、プルーフテストプラス画面(P.28~39)に移動します。



本取扱説明書は、最新の製品の説明と仕様を説明するために編集されています。クロスビー | ストレートポイント は、本規約中の内容を予告なしに変更する権利を留保し、提供された情報への依存によって生じた損害(結果的な損害を含む)について責任を負いません。

クロスビー | ストレートポイント 製品およびサービスに対する唯一の保証は、それらに付随する保証書に記載されている内容のみです。本書のいかなる内容も、追加の保証を構成するものとして解釈されるべきではありません。

@本取扱説明書は、クロスビー | ストレートポイントの所有物です。

テクニカルサポートが必要になった場合に備えて、購入時に次の情報を入力しておく便利です。

ソフトウェアバージョン:	
メディア:	<input type="checkbox"/> USB <input type="checkbox"/> ダウンロード
購入年月日:	

商標

Windows® 7, Windows® 8, Windows® 10 及び Windows® 11 は、米国およびその他の国におけるマイクロソフト社の登録商標または商標です。

マークと記号

本取扱説明書で使用されている注意事項は次の通りです。



操作や取り扱いに注意が必要なことを表します。



IMPORTANT

ソフトウェアやロードセルを適切に機能させるために必要となる重要な手順、指示または情報を表します。



CAUTION

手順や指示が守られなかった場合、人身傷害または物的損害が発生する可能性がある潜在リスクがある事を表します。

お問い合わせ先



MARTEC マーテック株式会社

本社	〒650-0046	神戸市中央区港島中町5-1-1	TEL. 078-302-0460 / FAX 078-302-1404
東京支店	〒104-0052	東京都中央区月島1-27-9第4いちかわビル	TEL. 03-5546-1232 / FAX 03-5546-1238
名古屋支店	〒455-0801	名古屋市港区小碓2-126	TEL. 052-389-5300 / FAX 052-389-5301
神戸支店	〒650-0046	神戸市中央区港島中町5-1-1	TEL. 078-302-2370 / FAX 078-302-0446
福岡支店	〒816-0912	福岡県大野城市御笠川2-16-18	TEL. 092-513-3061 / FAX 092-513-3062
札幌営業所	〒003-0871	札幌市白石区米里1条2-14-12	TEL. 011-872-7161 / FAX 011-872-7170
仙台営業所	〒984-0012	仙台市若林区六丁の目中町30-24	TEL. 022-287-3140 / FAX 022-287-3144
北関東営業所	〒370-0854	群馬県高崎市下之城町532-4	TEL. 027-367-4611 / FAX 027-367-4615